

民報
おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目
59番地
Tel 24-2021
Fax 24-2049地域に求められる
医療提供体制を！

新医療センター



市当局は、496名の救急受け入れのうち、発熱等の症状があった内科対応が287名であり、通常時と比較して5倍以上であったと答えました。

今季もインフルエンザや新型コロナウイルス感染症が流行したことから、特に年末年始の総合水沢病院の救急対応状況について質問しました。

年末年始の救急受け入れ
287名 通常の5倍！

佐藤美雪議員は、地域医療の現状と今後のあり方について市長の姿勢と当局の取り組みの現状を質しました。

奥州市議会第1回定例会は、2月19日から一般質問が始まり、日本共産党市議会5人全員登壇しました。今回は、2月20日に行われた佐藤美雪議員の一般質問についてお知らせします。



乳幼児健診、病後児保育は継続
しっかり対応していく

佐藤議員は、市内小児科クリニックの閉院や水沢病院の小児科医が退職することから、小児科医療の縮小を懸念。小児科医確保策と乳幼児健診、病後児保育の体制について質問しました。

それに対し市当局は、小児科医を急募し、確保に向けて努力するとともに民間の小児科医の誘致策も検討する。乳幼児健診は医師会と連携。病後児保育は、緊急時は胆沢病院に対応を

お願いする方向で継続させていく方針だ、と述べました。

訪問診療の提供体制

十分ではない

佐藤議員は、市内で必要とされる医療の一つである訪問診療について、現状と課題認識を質しました。

当局は、人口10万人当たりの患者数県平均4253人に比べ、胆江圏域は2401人となっており、医療提供体制は十分ではないと推測。今後の需要増への対応強化が必要という認識を示しました。また、衣川歯科診療所での訪問歯科診療について紹介。口腔ケアで食べることを支えるため取り組んでいる、と述べました。

医師確保へ市長の姿勢、

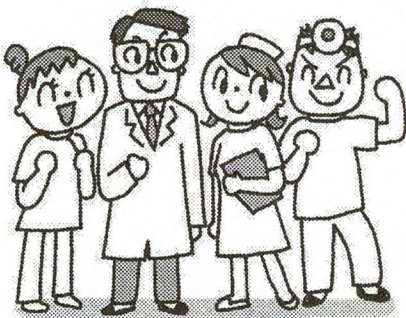
市全体の機運醸成が不可欠

佐藤議員は、医師確保における市長の姿勢について、先頭に立つて行うべきだと主張し、質しました。

市長は、大学医局の力が弱まり、医師派遣が極端に減っている状況をあげ、安定的な医師確保策が取れない状況を述べつつ、自ら東北医科薬科大学の腎臓内科医師と接触。地域医療奥

州市モデルへ共感を持って受け止められたとのこと。仙台圏であれば通勤しながら、大学で研究を続けることが可能で、医師確保につながるのではないかと述べました。

佐藤議員は、更に市民も医師に来てほしい、という機運を醸成することが医師確保には不可欠ではないか、と主張しました。

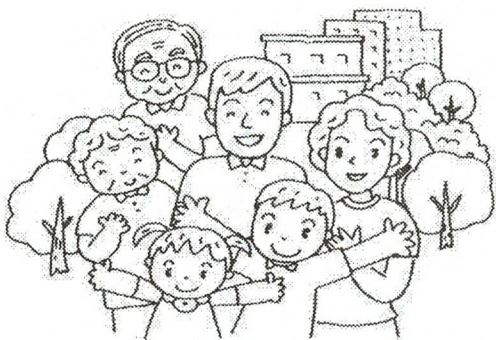


居住地域で安心して医療を受けたい その願いに寄り添う
新医療センターを

新医療センターを

佐藤議員は、2月24日の地域医療シンポジウムに臨む市長のスタンスについて質問。新医療センターの必要性について強い意志表示を求めました。

市長は、対決軸を作るのではなく、地域の医療にとって一番大切なものは何かを考える機会



に。医師会からはプロとしての厳しい意見もあるが、これはしっかり受け止めなければならぬ。何より医療従事者の尊厳に配慮し、プライドを持って仕事ができるような関係づくりを念頭に臨みたい、と述べました。

佐藤議員は、医療従事者への尊厳について市長が述べたことを評価しながら、●かかりつけ医で発熱への対応ができない状況、●訪問診療体制の弱さ、●小児診療の縮小等、この地域で求められる課題が山積している中で、行政も医療も市民も、一体に取り組むことが必要。各地域の市立医療施設の役割を活かしながら、市民のいのちと健康を守るための新医療センター建設を強く求めました。